



『生きていることわざ』

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 市議会報告

【事務所】船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117

Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

暑さ寒さも彼岸まで。糊口(ここう)を凌(しの)ぐ

【暑さ寒さも彼岸まで】◇残暑の厳しさも秋の彼岸になれば衰え、余寒の厳しさも春の彼岸になれば薄らぐこと。

・「彼岸」は春分と秋分の日を中日とした前後七日間をいい、昼夜の長さがほぼ等しい。気候の変わり目をいう。

【糊口を凌ぐ】◇なんとか生計を立てていくこと。

・「糊」は「粥(かゆ)」のこと。粥をすすってやっと生活していく意。

厳しい残暑でしたが、今年は『暑さ寒さも彼岸まで』のことわざ通り、春のお彼岸は寒さから暖かさに、秋のお彼岸は暑さから涼しさに丁度うまく切り替わりました。さて、船橋市議会の第3回定例会は9月27日に閉会しました。今号は、議案質疑と一般質問をひとつずつご報告いたします。

【議案質疑】平成24年度一般会計補正予算について

企画財政部からの資料で、財源調整基金（一般家庭での貯金）の平成23年度の残高が194億2000万円になることが分かりました。この数字は、船橋市では過去2番目の大きなものです。平成24年度は補正予算などで取り崩しても、最終的には153億円余りが年度末での残高となりそうです。



※財源調整基金：年度間の財源の不均衡を調整するための積み立て金です。不況によって税収が減少したり、災害により支出が増えたりするなど、収入減少や支出増加によって財源が不足する場合に、この財政調整基金を取り崩して、その年度の財源に充てます。また、財源に余裕のある年度には、今後の安定的な財政運営のために、剰余金を財政調整基金に積み立てます。

以前から船橋市は財政が厳しいので緊縮の予算組みをしていました。何故このように財政に余裕ができたかといえば、一部の年から「福祉の後退だ」とか「弱者を切り捨てている」などと言われながらも、誠心誠意市政の舵取りをしてこられた藤代市長のリーダーシップと、不交付だった国の交付金が交付されるようになったことが挙げられます。



しかし、『糊口を凌ぐ』ほどだった財政が少し豊かになったからといっ

て、無駄に使うことは許されません。現市長以前は、景気が良かったこともあり、土地を買い「箱もの」と言われる建物の建設ラッシュでした。

これからは、建築後40～50年以上もする学校など公共施設の建替えが目白押しとなります。楽観は許されません。

ところで、8月に発表された学校の耐震化率が53.1%と、千葉県で船橋市が最低となりました。



藤代市長は「平成27年度までに100%にする計画だ」と明言し、日本経済新聞で「船橋市では震災後、市長がリーダーシップを発揮して政策の優先度を上げた。船橋市のように首長が問題意識を持つことが重要だ」と大変評価しています。

しかしながら、南海トラフや首都直下地震などが必ず起こると言われている今、平成27年といわず、少しでも前倒しする必要があるのではないかと質問しました。

— 企画財政部長の答弁 —

耐震改修工事は、莫大な経費を要するので、一般財源だけで行うのではなく、国庫補助金や起債を十分活用すべきです。新年度予算の前に国で24年度の補正予算が措置されれば柔軟に対応していきますし、25年度以降において国の補正予算などがあつたら、担当課の意向を踏まえて予算措置を講じてまいります。

【一般質問】学校におけるいじめについて

昨年度、千葉県内の全小・中学校、高校で認知されたいじめの件数は、7452件で、愛知県に次いで2番目に多いのです。特に小・中学校では7378件で1校あたり5.3件にのぼっています。



松戸市では中学1年生の男子生徒が繰り返しいじめを受け、2学期に入って不登校になってしまいました。生徒側が9月11日に被害届けを松戸署に出して受理された、との報道がありました。

私はいじめにより自ら命を断つ前に、泣き寝入りしたり、いじめのサインを見逃すことなく、被害届けを出すことが、いじめ撲滅の第一歩だと思います。本市では被害届けを出す事案があつたか聞きました。さらに「先生方の目配りと気配りが一番重要で、見て見ぬ振りにはあつてはならない。保護者が学校に怒鳴り込んできたなら先生方を教育委員会が守ってやる姿勢が大切だ」と述べました。



— 学校教育部長の答弁 —

現在のところ本市では警察にいじめによる被害届けを出した事案はありません。特に悪質なケースについては、学校の対応と警察も含めた関係機関への相談ということも説明しながら対応しています。